久、古賀軍と共に出て
出征仕度相成て
い時分に成て
自然と
日上る
元来此方の
世界に我党の
時あるのみ
而して
主張宋学
数人と一致
而して
て
みし
簡軍なる
もなく
と
る
加一層
右
久し
者は大抵
自然
情
陽明
之を
由

情より政党ヲ結成(諸君)ハ公認セらる政党ニ
務故あるもしめけ所を頭ハ志ガ所合
之を鍛ヘ其端と他党を〆て之を生る
ふ由なきのみならむめし
初二我党ガ右許謂年政且ノ徒ニ中ヘ
理屈あり多論ある者多く大て自由党
之類籍を厭ひ同じ我党之寄する者
之傾向アリ私ハ目下異家之困難ハ諸
只潤ニ耐えさる様ニ可得来米價ハ拾
円之七八俵乃至五六二三四ニ当ル之女
地價ハ従前ニ三分ノ一モ価セすして
却ガ之事ニ田畑を向ふ小作をなす事
さんより寧ろ一層之始末之窮する様
之ある程ならバ何事をも棄して耳を傾
る者なし濃之一篤之言説を弁ず無頓
着を信すすら窮するヘリハ其難し
初三当今ノ保守者を嫌フ之党者なきも
未だ之常識ありて寡て路傍四郷をすず
る者ハ知識ある代之人物ヲ其中ニ
未だ之人物として我党ハ結成者何ぞ我
る小生等ハ知合ハ自由党当地を以って
為めに生活ヲ保ちをして保持之結成を得
セよめんと称する者ハ自由党之経と其
るを画さんとする之事情ありて或ハ
第生者の人ニ擢ん出るとて所する者ハ
却説党之欲ヲ恣ひんを務めざる所
之代去故議員中ニ於て我党員と参集
る所ありのをとうんを出来難し代言人ニ
此好む自由党輸ヲ得る地方在て営
業する故来し我党ハ必要セバ自然許諾
流我人を滅せんを事と世中ニ寧ろ一時曖昧
之地を占むるを以て安全之策と考ふる
之状有り
右之次第なれバ一党ニ我党勢を高ぬ
之権張せんとニハ殆ど困難ハ覚ゆ於此

業するか若し我党[illegible]
流弊を滅せんとするも然も実に一時の姑息
の地を占むるを以て目今の策と考ふる
の状なり
右の次第なるは一党に我党員を薫化
し精錬せんとせは頗る困難、党の紀律
も未た確立せす、結合力を堅固ならしむる條件に
欠乏して顕然たり、唯暫く時機を待つ
猶豫を要するのみ、而して党地方
の人心ハ一般に極て神経遅鈍なる方
なれとも近来に至ては漸く自由党
の必要を自覚したるらしく候得共
自由党の主旨ハ他を誘導する事ハ
難かりたる所にて更に引き受へき
今日未た何等の他の誘導によりて昭覚
志ある輩ハ四方に走り来て我党揚
（さる程に勇気なき輩も姑息にし
地位を見出さんとする者しめし陥北
反自由党（自由党中にも努力有る者）ハ益
に解散を公告せしハ暴動ハ全党挙
而て自由党と合併するの見込なりしも
なりして世道ありハ不得破壊するを
ならとも信ん誌にして今日依て世一部を
ですらも之を刻苦して我党に入らむ
ることハ狭き地方の事情と云ひ徳義上
勇気を失しまじと後兄に不平なる者ある
りまて許容されさる者なしと思ふ実
る利弱し曖昧して地位をも与え自由
党に入ることを防ぐは東京にもあり
に断然明白を一決せさるへし機にて
あり今や其機ハ既ハ我党大挙して
自由党を企て之を崩壊せんとするも統せ
ふれらさるへき時は二月頃ハ早大挙し
準備をなすへしと信ず候

党之方ことを防きハ是ヨリ本来之お
らぬ断然時局を一決せさるへし機にて
あし今日世機ハ自ら我党大挙して
自撃を企て之を除きせんとせハ遂ニ
ふみらさる可致に御座候小生大挙し
準備をなすまでりと信居候
大志甚た不愉快なる根本之
之を進むすら当ら候
情構ニ付今御用ニ而御座候
断申し不及候所不悪御承知
被下度候尚ホ当方三ヶ月中右件
時局大事あまり右北辰日昌等
御願之常庭未人物揃
之候也尤も小野氏ニ面会を
信ち何程か候回之地を成す
之機にて事を顧之所ニ而
来遊ニて来往候也

十月十日　新保次
蒲生待人
再拝

大隈殿
閣下

尚々何卒前件御尽力
て此時ニ得貴意申候